

巻頭言

どうしたらよかったのか

向谷地 生良 (浦河べてるの家理事長／北海道医療大学特任教授／協同総研顧問)

私は、購読している新聞(朝日新聞)の片隅に毎日綴られている哲学者、鷺田清一さんの「折々のことば」に目を通すことを日課にしています。7月7日(3437)は、NHKの連続テレビ小説『あんぱん：第63話』(中園ミホ〈作・脚本〉)の中で語られた「正義なんか信じちゃいけないんだ。そんなもの簡単にひっくり返るんだから」が取り上げられていました。鷺田さんは、この言葉に対して「敗戦の後、児童らの心を戦争に仕向けたと己を責める小学校教師に『うちはどうすればよかったろうか』と問われ、幼なじみの復員兵が返した言葉。もし『逆転しない正義』があるなら『全ての人を喜ばせる正義』しかなく、それを見つけないと続ける。それを再び正義として掲げたら元も子もないが、でもこの狭い道に賭けた」と記しています。

このドラマは、説明するまでもなく、アニメ『アンパンマン』の作者である「やなせたかし」と妻の「のぶ」さんをモチーフにしたもので、実は、はじめての経験ですが、朝ドラを毎日観るようにしています。一緒に暮らす二歳になる孫娘から、毎日「アンパンマン！」とせつつかれて動画を一日三回は、一緒に観る生活をしていますが、朝ドラも含めて、『アンパ

ンマン』の世界には、現代の私たちが直視すべき大切なものが、織り込まれているような気がします。

実は今回、冒頭で鷺田さんのコラムを取り上げたのは、ふたりの主人公、「のぶ」が復員した「たかし」に問いかけた「うちはどうすればよかったろうか」というキーワードに私も注目し、この場面を動画にとり、「のぶ」と「たかし」のやり取りを書き起こしていたからです。このキーワードに着目したのは、理由があります。それは、2023年に開催された山形国際ドキュメンタリー映画祭で、上映された藤野知明監督自身の20年以上にわたる記録、統合失調症を持つ姉と両親との日常を描いたドキュメンタリー映画『言いたくない、家族のこと「どうすれば、よかったか？」』が、異例ともいえるヒットをし、ロングランを重ね、多くの人たちが上映会場に足を運んでいるからです。この映画は「統合失調症の症状があらわれた姉と、彼女を精神科の受診から遠ざけ家に閉じ込めた両親を、弟である藤野知明監督自身が20年以上にわたって記録した作品」と紹介されているように、本来であれば、一般市民にとっては、統合失調症を持つ当事者と家族の話題は、

非日常的で、関心を持つ人も限られると思われるがちですが、なぜ、この地味な作品に、多くの人たちが足を運ぶかを考えたときに、私は「どうすれば、よかったか？」というタイトルに、秘密があるような気がしています。

私たちは「どうしたらいいかわからない」と「どうすればよかったのか」という不確かさと不全感の中に生きています。その意味で、あの映画は藤野監督の「統合失調症を持つ当事者と家族の置かれた現状」という問題提起を超えて、私たちの中にある「どうすればよかったのか」という生きにくい日常への共感と連帯のメッセージとして観られているような気がします。

私は、この「どうすればよかったのか」という問いは、とても大切な生活という日常の起点となる可能性を孕んでいると思います。べてるとも親交があった精神病理学者の木村敏さんが「人間には、もともと自明性と非自明性とのあいだの弁証法的な運動がそなわっている。疑問をもつということは、われわれの現存在を統合しているひとつの契機である」(W・ブランケンブルク、木村敏訳『自明性の喪失』みすず書房)と述べているように、精神疾患を経験した当事者の自助活動としてはじまった「当事者研究」も、「悩む」ことから「問い」を共有し、仲間と共に

“自明性－解りやすいこと”と“非自明性(解りにくいこと)”のあいだで試行錯誤を重ねながら、「声なき者」の歴史や知の可能性を見出し再構築しようとする試みであると言うことができます。そして、何よりも忘れてはいけないのは、協同労働こそ「自分が置かれた環境を、歴史や文化などの意味ある世界に広げていく」(P・フレイレ『被抑圧者の教育学』垂紀書房)世界で例を見ない壮大な「社会実験」であり、アクションリサーチであるという事です。その意味で、永戸祐三さんの近著、『協同労働がつくる新しい社会』(旬報社)は、その軌跡を綴った壮大な物語であり、さまざまな領域で読み継がれるべき歴史的な価値をもった貴重な実践記録です。

最後に、冒頭の「のぶ」と「たかし」とのやり取りを紹介して、巻頭言を閉じることになります。

のぶ「たかし、うちはどうすればよかったやろか」

たかし「どうすれば、よかったのか。ほくも、そればかり考えてたけど、わからない。これからも、それは自分に問いかけることしかできないんじゃないかな。新しい世の中になっても、問いつづけるしかないよ。」